

WLAC REPORT 2021

World Liberal Arts Center Report



名古屋外国語大学
ワールドリベラルアーツセンター長
亀山 郁夫 (学長)

巻頭言

ここに名古屋外国語大学ワールドリベラルアーツセンターの活動報告書「WLAC REPORT 2021」をお届けします。

2015年に発足した本センターは、日本を含む世界のさまざまな地域の言語、文化、芸術、教育、社会、政治等に関わる問題系を掘り起こし、21世紀の現代に真にふさわしい教養教育の理念構築に寄与することを目的としております。例年、本レポートでは、一つひとつ数えあげるのも困難なくらい多くのイベントやシンポジウムを紹介してきましたが、昨年にひきつづき、今年もまた、新型コロナウイルス禍のあおりを受け、本センター独自の企画の数は限られました。ただ、各学科主催の講演会等イベントを積極的に支援することで、結果的には想像以上に充実した企画を提供することができました。最大の収穫は、世界教養学部の主催によるシンポジウム「地球にちりばめられて ——多和田葉子の世界」(2021年12月18日)です。本シンポジウムは、他の多くの企画がオンラインで開かれるなかで、ドイツと日本を結ぶ対面、ハイフレックス方式によって実現されました。また、フランス語学科主催による野崎欽氏オンライン講演会「文学は逆転である —— ボードレールとフローベール、生誕200周年に寄せて」(同11月27日)は、2021年度の企画としてまさに時宜を得たものとなりました。

他方、名古屋駅前の新キャンパスの活性化をも狙いとしつつ、新規のイベント「WlacTALK」(2022年3月12日)がスタートしたこと、また、公開講座「NUFS OPEN COLLEGE」を開校する運びとなったこともここにご報告いたします。本センターの研究紀要である雑誌「Artes MUNDI (アルテス・ムンディ)」第7号も無事刊行され、次年度に向けてよりいっそう知的発信を強化したいと念じているところです。

最後に、各イベントの開催にご尽力くださいました方々、また、ご視聴してくださった皆様に心より御礼申し上げます。ランチタイムコンサートにご出演下さった愛知県立大学大学院の学生の皆さまにも心から感謝申し上げます。これからも地域を超えて皆さまの温かいご協力ご支援を賜りましたら幸いです。

2021年度 活動一覽

オンライン講演会 2021年5月18日(火)

英語圏文学の現在

柴田元幸(翻訳家)

CLAD 主催
WLAC 共催



オンライン講演会 2021年7月16日(金)

ポストコロナ時代のキーワードと皆さんへの期待

橋本孝之(日本IBM 元会長・名誉相談役)

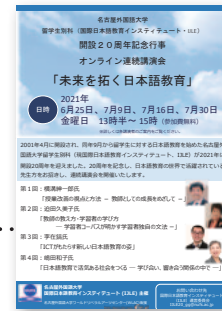
現代国際学部・世界教養学部・WLAC 共催

オンライン講演会 2021年6月25日(金)、7月9日(金)、7月16日(金)、7月30日(金)

未来を拓く日本語教育

横溝紳一郎(西南学院大学教授・元日本語教育学会理事)
 迫田久美子(広島大学特任教授・副理事、広島大学名誉教授、
 国立国語研究所名誉教授、元日本語教育学会副会長)
 李在鎬(早稲田大学大学院日本語教育研究科教授、計量国語学会理事)
 嶋田和子(一般社団法人アクラス日本語教育研究所代表理事、
 日本語教育学会監事、元日本語教育学会副会長)

名古屋外国語大学 国際日本語教育インスティテュート (IJLE) 主催
 WLAC 後援



トーク 2021年8月2日(月)

刊行記念トーク「世界は映画でできている」

石田聖子(名古屋外国語大学准教授)
 白井史人(名古屋外国語大学准教授)
 沼野充義(名古屋外国語大学副学長)

WLAC 主催、名古屋外国語大学出版会 後援
 ジュンク堂書店・名古屋栄店 協力



オンライン講演会 2021年11月26日(金)

これから女子の生きる道

上野千鶴子(社会学者・東京大学名誉教授・
 認定NPO法人ウィメンズアクションネットワーク (WAN) 理事長)

現代国際学部・世界教養学部・WLAC 共催



オンライン講演会 2021年11月27日(土)

文学は逆転である

—— ボードレールとフローベール、生誕200周年に寄せて

野崎敏(放送大学教授・東京大学名誉教授)

外国語学部フランス語学科・WLAC 共催



オンライン講演会 2021年12月3日(金)

能という演劇 Part2

— 伝統芸能はこんなに楽しい! —

大槻文藏(人間国宝 観世流シテ方楽師)

現代国際学部・世界教養学部・WLAC 共催



ワークショップ 2021年12月11日(土)
英語教員ワークショップ 20周年記念行事
 吉田研作(上智大学名誉教授)

英語教員ワークショップ 主催
 WLAC 後援



トーク 2021年10月28日(木)、11月24日(水)、12月13日(月)
上映トークシリーズ「世界の映画を見て語る」

藤井省三(名古屋外国語大学教授、図書館長)
 白井史人(名古屋外国語大学准教授)
 柿沼岳志(名古屋学芸大学講師)

図書館・WLAC 共催
 名古屋外国語大学出版会 後援



オンライン講演会 2021年12月17日(金)
映画監督としての生き方

周防正行(映画監督・アルタミラピクチャーズ)

現代国際学部・世界教養学部・WLAC 共催



シンポジウム 2021年12月18日(土)
地球にちりばめられて
—多和田葉子の世界(オンライン)

多和田葉子(作家・詩人)
 ソン・ヘジョン(早稲田大学招聘研究員)
 齋藤由美子(津田塾大学非常勤講師)

世界教養学部 世界教養学科・国際日本学科 共催
 WLAC 後援



講演会 2021年12月20日(月)
牧畜を人文学する
—コロナ禍の中で「移動・越境する民」について学ぶ—

シンジルト(熊本大学大学院 人文社会科学部 教授)
 井上岳彦(北海道大学 スラブ・ユーラシア研究センター 特任教授)

世界共生学科・WLAC 共催
 名古屋外国語大学出版会 協力



コンサート 2021年11月4日(木)~12月23日(木)
ランチタイム・ピアノコンサート

眞鍋杏梨、関口詩織、橋本由羽、阿部夏己
 (愛知県立芸術大学大学院生)

WLAC 主催



オンライン講演会 2022年1月13日(木)
これからの複言語・複文化能力を考える

山崎吉朗(日本外国語教育推進機構(JACTFL)理事長)

言語教育開発センター・WLAC 共催



ワークショップ **講演会** 2022年3月12日(土)
WlacTALK プレイベント <地球に触れる>

城月雅大(名古屋外国語大学准教授)
 木内堯(名古屋外国語大学講師)
 梅垣昌子(名古屋外国語大学教授)
 ハンプリー恵子(名古屋外国語大学教授)
 亀山郁夫(名古屋外国語大学学長)

WLAC 主催



オンライン講演会

文学は逆転である

ボードレールとフローベール、生誕 200 周年に寄せて

2021 年 11 月 27 日 講師：野崎歆（放送大学教授・東京大学名誉教授）

ボードレールとフローベールの生誕 200 周年を記念して、フランス文学者の野崎歆氏の講演会を開催した。二人の作品の魅力を、豊富な引用を交えつつ、またそれぞれの人生とも密接にリンクさせながら、たっぷり語ってもらった。

「文学は逆転である」という人を食ったような講演のタイトルには、主に二つの意味が込められている。第一に、ボードレールもフローベールも人生をしくじったが、文学でそれを逆転したという意味、第二に、醜いものを美しいものに、日常を永遠に、逆転させるのが文学であるという意味である。講演を通じて野崎氏がとりわけ強調していたのは、文学作品と作者の人生は深く結びついているということである。従来のフランス文学研究においては、作品と人生は切り離さなければならないという考え方が支配的であった。しかし、その結果として、私たちの読書体験は貧しいものになっていたのではないかと。「文学というのは、血の通った、我々の人生の力となるはずのもの」という野崎氏の言葉が印象的であった。その他にも、訳詩の魅力や日本文学への影響など、話題は多岐にわたった。

講演後の質疑応答では、インターネットの時代の文学といったアクチュアルな話題も取り上げられた。最後に、ワールドリベラルアーツセンター副センター長のエリス俊子先生にコメントをいただき、和やかな雰囲気の中で講演会は締め括られた。

(外国語学部 フランス語学科 木内 堯)



これから女子の生きる道

ポストコロナの時代に

2021 年 11 月 26 日、日本を代表する社会学者、女性学者の上野千鶴子先生をお招きし、「これから女子の生きる道：ポストコロナの時代に」という演題でご講演いただいた。オンライン開催となったが、学生、教職員、一般受講者の約 300 名が参加した。

世間で大きく話題となった東京大学入学式での祝辞に始まり、前半では、女性議員が増えない理由、夫婦別姓、非正規雇用に起因する男性の生涯非婚率上昇など、現代日本におけるジェンダー問題について具体的に話された。中盤には、コロナ禍という未曾有の事態から生まれた社会変化について論じられた。情報格差が経済格差を生んでいること、年収とテレワーク実施率が比例すること、どうしても這い上がれないアンダークラスが1000万人を超えたこと等、豊富なデータを基に説明された。「非常時には、急に新しい問題が起こるのではなく、平時の矛盾や問題が増幅拡大して現れる」「元々脆弱な人々がより追い詰められた」という分析に多くが共感したことだろう。後半では、今後社会がどのように変化しそれにどう対応すべきかという喫緊の問題について話された。ものづくり社会から情報社会へ変貌するなかで、教育も変わる。これから求められる教育付加価値は情報生産性の高い人材育成であること、情報はノイズから生まれノイズはdiversityから生まれること、外国語を学び異文化に触れることはそのdiversityに繋がることなど、外国語大学の存在意義に関わる鋭い指摘であった。

最後に再びコロナ禍の社会問題に触れ、「今日の強者は明日の弱者。だから、弱者が弱者のまま尊重される社会を作る必要がある」「加害者にも被害者にも傍観者にもなるな」という力強いメッセージで締め括られた。

最新データと深い知見に裏打ちされた軽妙な「上野節」に一同大いに聞き入った。知的興奮と示唆に富んだ濃密な 90 分であった。

(世界教養学部 国際日本学科 徳本浩子)



周防正行監督講演 「映画監督としての生き方」 の開催

2021年12月17日(金)に、映画監督・周防正行氏による講演「映画監督としての生き方」を開催した。監督デビュー以来、コメディ、ミュージカル、時代劇から社会問題を鋭く問う作品まで、数々のヒット作を生み出し日本映画を牽引してきた周防監督に、ご自身の監督としてのご経験をお話いただいた。

2020年12月のオンライン講演に続き、今回は本学日進キャンパスに監督をお迎えし、対面とオンラインを組み合わせて実施した。現代国際学部・世界教養学部が共同で運営する「現代国際学特殊講義 A / グローバル・キャリア講義」を受講する50名近くの学生が教室で監督の声に直接触れることができたほか、一般からの参加を含む150名近くがオンラインで講演を見守った。

監督ご自身の大学生時代の映画評論家・蓮実重彦氏との出会いから、その背景をのぞいてみたいと飛び込んだ映画界での駆け出しの助監督時代、さらに監督として一本立ちしてから現在へいたる半生を振り返るユーモアに満ちた語り口に、聴衆は自然と引き込まれていった。とりわけ、監督デビューが決まった際のテーマ選択に関する自由と責任への気づきや、さまざまな世界との出会いの「驚き」を核に作品を作り続けてきた姿勢が印象的であった。また僧侶の世界へ飛び込む若者を描いた『ファンシイダンス』の演出秘話など、監督ならではの生き生きとしたエピソードを交えた質疑応答を経て、瞬間に予定時刻の90分を迎えた。

お話の随所に、就職活動やコロナ禍での課題に直面している学生たちへのポジティブな激励がちりばめられていた。そのメッセージは、周防監督がその作品において若者に向ける、優しく温かいまなざしと重なる。この講演をきっかけに、さらに広い層の観客が監督の色褪せぬ作品に触れることを願いつつ、次回作がさらに待ち遠しくなる貴重な講演であった。

(世界教養学部 世界教養学科 白井史人)



シンポジウム

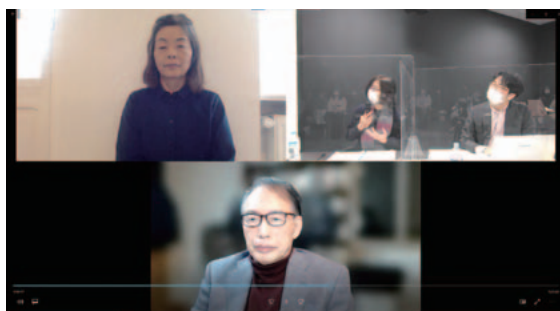
新サテライトキャンパスと世界をつないで 地球にちりばめられて —多和田葉子の世界

2021年12月18日、WLACでは作家の多和田葉子さんを迎えて名駅キャンパスでハイフレックス式イベントを開催した。多和田さんはベルリンからオンラインで参加、会場には討論者と学生が集まり、さらに295名の視聴者がオンラインで参加した。海外からの視聴者もいて、文字通り「地球にちりばめられた」人々が、ヴァーチャルとリアルの交錯するなかで一堂に会する不思議な空間が実現した。

冒頭、沼野充義副学長よりビデオメッセージがあり、続けて多和田葉子の朗読パフォーマンスを10か国で撮りつづけてきたソン・ヘジョン氏の映像作品が上映された。世界各地に響く多和田さんの声の余韻のなかで、今度は多和田さん自身が大きなスクリーンに登場し、「文学は創作の立場から語れるか」と題して作者と作品の関係をめぐるカジュアルで、かつ奥の深い話をされた。作品は作者の内に「受胎」され、それ自身の力で出来上がっていくのであって、生まれた作品について作者は一人の読者としてしか語れないのだと多和田さんは訴えた。それは母親がどんなに出産の経験について語っても生まれた子供について語れないのと同じだと。このことは、裏を返せば多和田さんがいかに鋭敏に周りの世界を感じ取り、固定観念や先入観を捨て、自身の生そのものを世界に晒しながら執筆しているかを示唆するものであろう。

講演のあと、学生と教員による詩の朗読、沼野教授の多和田文学論（代読）、齋藤由美子氏による文学と音をめぐる論考、白井准教授による多和田文学の映像化をめぐる問題提起など密度の濃い発表が続いた後、最後に亀山学長が多和田文学の豊かさについて滔々と語られた。その豊かさの根底にある深い喪失感と責任の意識の重さゆえに、それは「震災後文学」であることを拒み、根源的な文明批判に通じる壮大な想像力の世界に我々を誘うものであるとする亀山学長の弁は、国際的な鎖国化が進む現在を生きる私たちへの問いかけでもあり、多和田さんは、「ことばには分断をうち壊す力がある」と応じた。すべての参加者がなんらかの自分自身への問いを持ち帰ることのできる刺激に満ちた3時間であった。

(ワールドリベラルアーツセンター副センター長
エリス俊子)



名古屋外国語大学オープンカレッジ(公開講座)が、2022年4月スタートします!

2022年4月から、名駅キャンパスにおいて、社会人向けの世界教養プログラムと複言語の公開講座が開講されます。「12の教養と12の言語」をキーワードに、様々な講座が提供されます。

■ 募集要項

受講申込

学期制ですので、学期ごとに受講申込をお願いします。教養科目、言語科目ともに1講座から登録可能です。開講科目は学期ごとに異なるのでご了承ください。

受講資格

中学校を卒業されている方などなたでも受講可能です。学歴、年齢、性別、職業、国籍を問いません。

開講期間

2022年4月12日(火) - 7月29日(金)
(申込受付:2022年3月22日(火)まで)

授業時間

各回の授業時間は80分です。
月曜から金曜の5限(16:40-18:00)、6限(18:20-19:40)、土曜の1限(9:10-10:30)、2限(10:50-12:10)に開講されます。受講される講座の曜日と時限は各講座の案内を確認してください。※授業は対面で行います。オンラインでは受講いただけません。

受講料

受講料は科目により異なりますので各講座の案内を確認してください。テキスト代は受講料に含まれません。名古屋外国語大学の卒業生・修了生は50%割引で受講できます。

会場

名古屋外国語大学 名駅サテライトキャンパス
BIZrium 名古屋 6F (イオンモールNagoya Noritake Garden併設)
〒451-0051 愛知県名古屋市中区則武新町3丁目17号

修了証

所定の条件を満たした方には、「名古屋外国語大学オープンカレッジ 教養講座修了証」を発行します。

申込期間

2022年3月8日(火) - 3月29日(火)

申込方法

右記のQRコードを携帯電話やスマートフォンで読み込んでいただくか、下記URLを検索して、申込フォームに必要事項を入力・送信してください。

<https://req.qubo.jp/wlac/form/noc2022> お申し込みはこちら▶



事務局の窓口でもお申し込みできます。詳しくは名駅キャンパスオープンカレッジ事務局にお問い合わせください。

※大学HPおよび2022年度春期オープンカレッジ・パンフレットに記載の注意事項を必ずご確認ください。

施設利用について

受講者には、名古屋外国語大学名駅サテライトキャンパス内にあるWLALI図書室を自習室として解放します。飲食については、ラウンジスペースをご利用ください。

感染予防対策について

名古屋外国語大学名駅サテライトキャンパスでは、万全の感染予防対策を実施して皆様をお迎えします。

個人情報の取り扱いについて

受講申し込みの際に受講者の情報をご提供いただけます。受講者の個人情報は厳重に管理し、講座の運営のみに利用いたします。



詳細は大学HPおよび2022年度春期オープンカレッジ・パンフレットに記載しております。

https://www.nufs.ac.jp/library_facilities/wla-center/opencollege/

■ 講座一覧

12の教養

番号	科目名	担当者	開講曜限	回数	受講料(税込み)
C1	日本人が知っておくべき仏教の思想—それが日本の哲学だ!	湯谷祐三	月曜6限	12回	16,500円
C2	イスラム文化と社会	村山木乃実	火曜5限	12回	16,500円
C3	スワヒリ語とその世界	高村美也子	火曜6限	12回	16,500円
C4	フランス哲学:知識の哲学(エピステモロジー)入門	上西昇生	火曜6限	12回	16,500円
C5	ドストエフスキーと世界文学	亀山郁夫、甲斐清高、林良児、白井史人、齋須直人、梅垣昌子	水曜6限	12回	16,500円
C6	現代世界事情1(中国・ブラジル)	真家隆一、鈴木茂	水曜6限	4回	5,500円
C7	フランスの言語と文化	伊藤達也	木曜6限	12回	16,500円
C8	世界の中の日本文学:haiku, Kawabata, Murakami Haruki	エリス俊子	木曜6限	12回	16,500円
C9	現代世界事情2(中央アジア・トルコ)	地田徹朗、セダー・デテオール	木曜6限	4回	5,500円
C10	日中映画史	楳紅雲	金曜6限	4回	5,500円
C11	生命科学と倫理	北川章	金曜6限	12回	16,500円
C12	スペイン語圏文化	ロレーナ・ロハス	金曜6限	12回	16,500円

12の言語

番号	科目名	担当者	開講曜限	回数	受講料(税込み)
L1	韓国語入門 A-1	白明学	月曜6限	12回	16,500円
L2	中国語入門 A-1	張慧娟	月曜6限	12回	16,500円
L3	韓国語入門 B-1	李惠敏	火曜6限	12回	16,500円
L4	アラビア語入門1	村山木乃実	火曜6限	12回	16,500円
L5	はじめてのイタリア語(入門):アルファベットから始めるイタリア語	アナスタージャ・ブンドック	火曜6限	12回	16,500円
L6	フランス語入門1	ジェローム・バク	火曜6限	12回	16,500円
L7	韓国語入門 C-1	安都根	水曜6限	12回	16,500円
L8	トルコ語入門1	セダー・デテオール	水曜6限	12回	16,500円
L9	ドイツ語入門1	三宅恭子	水曜6限	12回	16,500円
L10	ブラジル・ポルトガル語入門1	重松由美	木曜6限	12回	16,500円
L11	ロシア語入門1	齋須直人	木曜6限	12回	16,500円
L12	中国語入門 B-1	周素芬	木曜6限	12回	16,500円
L13	インドネシア語入門1	ウインダルティ・ユリア	金曜5限	12回	16,500円
L14	スペイン語入門 A-1	ロレーナ・ロハス	金曜5限	12回	16,500円
L15	スペイン語入門 B-1	中川智彦	金曜6限	12回	16,500円
L16	少し学ばれた方のイタリア語(初級):もう一度基礎からのイタリア語	アナスタージャ・ブンドック	金曜6限	12回	16,500円
L17	タイ語入門1	寺田ダラボン	土曜2限	12回	16,500円

*授業内容の詳細・シラバスは大学HPおよび2022年度春期オープンカレッジ・パンフレットでご確認ください。

発行冊子

Artes MUNDI (アルテス・ムンディ)

(※ Artes MUNDI (アルテス・ムンディ) とは、ラテン語で「世界の技芸 (ぎげい)」のことをいいます。)



Artes MUNDI 第7号は、フランスの二大文豪ボードレールとフローベール、そしてロシアの作家ドストエフスキーの生誕200年という喜ばしい一年を記念し、フランス文学者の野崎歓さんによる講演会、日本ドストエフスキー協会のコアのメン

バーによるシンポジウムの記録を掲載することができた。一昨年来のコロナ禍によってWLACが単独で企画するイベント事業は数的にきわめて限られたものとなったが、今年一年は、各学科のご努力もあって、陰からサポートする側に立つ機会が少なくなかった。なお、来年度4月、名駅前の新サテライトキャンパスに公開講座 NUFs OPEN COLLEGE が誕生する。周知期間も少ないことから、最初からの成功を望むことは困難だが、立ち上げること自体が、NUFsの「意気込み」の表れであり、今後末永く地域貢献の一つの柱となることを期待している。最後に、Artes MUNDI 第7号の刊行にあたっては、名古屋学芸大学の水谷誠孝先生に表紙のイラストをお願いし、すばらしい作品をご提供いただいた。記してお礼を申し上げる。また、この三月末をもって本センター事務室の安江沙恵さんが去られることになった。彼女の献身的なお仕事ぶりに心より感謝の意を表し、新天地での活躍を祈りたい。

【目次】

- 特別講演
- 論文
- 特別掲載
- 評論
- テーマ書評 「コロナ時代を考える」
- コラム 「わたしの宝物」
- エッセイ 「教師と学生を結ぶ」
- 書評
- 著者インタビュー

編 集 後 記

さまざまな制約が課されるなか、オンラインでの教育・研究・文化活動の新たな可能性が見出され、一方、対面で人と接することの大切さを改めて感じずにはいられない、パンデミックの2年が過ぎました。

ワールドリベラルアーツセンターでも、昨年は朗読劇のオンライン配信など、限られた条件下での新しいかたちの活動に挑戦しましたが、本年はさらに、いくつものオンラインイベントのほか、対面とオンラインを組み合わせたハイフレックス方式でドイツ在住の作家とライブで対話を行うなど、距離と時差を超えた新形式のイベントを行うことができました。また、十全な感染防止の設備を備えた名駅サテライトキャンパスがオープンしたことに伴い、対面形式でのイベントも戻りつつあります。さらに、WLACの活動を広く地域社会に開き、近隣地区在住の幅広い年齢層の方々に学びの場を共有していただくことを願い、この春よりオープンカレッジ公開講座が開設されます。高校生をはじめ学外の方を交えてさまざまなトピックについて語るWlacTALKもはじまりました。WLACは新たな展開の年を迎えます。

これまでのご支援に感謝し、引き続きご理解とご協力を賜れますことを願って、今後も皆様と共に歩んでまいりたいと思います。

(ワールドリベラルアーツセンター副センター長 エリス 俊子)

運営者名簿

名古屋外国語大学ワールドリベラルアーツセンター

センター長	亀山 郁夫 (学長)
副センター長	エリス 俊子 (世界教養学部長)
運営補佐	梅垣 昌子 (副学長・英米語学科教授)
外国語学部担当幹事	甲斐 清高 (英米語学科教授)
	木内 堯 (フランス語学科講師)
現代国際学部担当幹事	佐藤 雄大 (現代英語学科教授)
	鶴本 花織 (国際教養学科准教授)
世界共生学部担当幹事	地田 徹朗 (世界共生学科准教授)
世界教養学部担当幹事	白井 史人 (世界教養学科准教授)
	宮本 真有 (国際日本学科助教)

顧問

副学長	高梨 芳郎
〃	佐藤 都喜子
〃	沼野 充義
〃	梅垣 昌子
〃	恒川 孝司 (常務理事・法人事務局長・名古屋学芸大学副学長)

事務局

	太田 恵雄 (事務局長)
	後藤 隆文 (庶務部長)
	安江 沙恵

名古屋外国語大学 ワールドリベラルアーツセンター

〒470-0197 愛知県日進市岩崎町竹ノ山57
電話：0561-74-1111 (代表) 0561-75-2164 (直通)
Mail: wlac_gg@nufs.ac.jp